

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）

分担研究報告書

広島県の僻地における認知症支援体制構築に関する研究

研究分担者 鄭勳 九 広島大学大学院医系科学研究科寄附講座 准教授

研究協力者 石井伸弥 メープルヒル病院 院長

研究要旨

本研究においては、広島県の中山間地・離島部における認知症支援体制の実態を明らかにするため、民生委員を対象とした調査票調査およびインタビュー調査（研究１）のデータ解析を実施すると共に、認知症支援体制構築に資する取組として、介護支援専門員の認知症ケアマネジメント質の向上に向けたオンライン研修プログラムの開発（研究２）を並行して行った。

研究１からは認知症の人がしばしば複合的な福祉課題を有していること、孤独・孤立が福祉課題の現れ方に影響していることなどが明らかとなった。さらに、研究２からは、介護支援専門員の研修ニーズとして認知症があり、ケアマネジメントの向上として認知症に関するオンライン研修が有効であることが明らかとなった。これらの成果は今後認知症の人が自分らしく暮らし続ける事のできる社会の実現に向けて必要な取組を検討する重要な基礎資料となることが期待される。

A. 研究目的

本研究においては、広島県の中山間地・離島における認知症支援体制の実態を明らかにするため、民生委員を対象とした調査票調査およびインタビュー調査（研究１）のデータ解析を実施すると共に、認知症支援体制構築に資する取組として、介護支援専門員の認知症ケアマネジメント質の向上に向けたオンライン研修プログラムの開発

（研究２）を並行して行った。

本年度、研究１でデータ解析を実施した際には、認知症の人において複合的に生じやすいといわれている福祉課題の実態を評価

することを目的とした。特に、複合的な課題の生じ方に地域差がないか、そうした生じ方に地域の特徴が影響していないか、また、近年、社会問題として重要視されている孤独・孤立がどのように複合的な福祉課題に影響するか評価を行った。

研究２においては、オンライン研修プログラムの効果検証を行った。

B. 研究方法

研究１．民生委員を対象とした調査票調査およびインタビュー調査

民生委員が果たしている認知症の人が地域

で過ごす上で果たしている役割を明らかにするため都市部と、中山間地・離島部の民生委員を対象として調査票調査を実施した。都市部として広島市中区、東区、南区、西区を含め、中山間地・離島には中山間地域として指定されている安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、神石高原町、江田島市、庄原市、三次市、府中市を含めた。調査方法は、自記式質問紙を都市部 1582 名、中山間地・離島部 969 名の民生委員に対して郵送した。調査票の発送にあたっては、広島県民生委員児童委員協議会および広島市民生委員児童委員協議会の協力を得た。

調査票調査実施後に、同意の得られた民生委員を対象として対面式半構造化面接を実施した。

本年度は収集したデータの解析を実施した。

研究 2. 介護支援専門員の認知症ケアマネジメント質の向上に向けたオンライン研修プログラムの開発

認知症支援体制構築に資する取組として、介護支援専門員の認知症ケアマネジメントの質の向上のため、一連の研修プログラムを広島県介護支援専門員協会と実施した。実施形式はオンライン（zoom）であり、それぞれ医師、看護師による講義とグループワークで構成した。対象は主任ケアマネである。各研修のテーマは先行的に実施した研修でのアンケート結果および広島県介護支援専門員協会との検討で決定した。研修の効果を検証するため、研修実施直前、直後、3 ヶ月後に認知症高齢者に対するケアマネジメント実践自己評価尺度¹⁾を実施した。

（倫理面への配慮）

本研究は、広島大学倫理審査委員会の許可を得て実施した。

C. 研究結果

研究 1. 民生委員を対象とした調査票調査およびインタビュー調査

本年度はこれまでに得られたデータの解析を実施した。

調査票調査において、市部では 1205 名の民生委員から（回答率 76.2%）、中山間地・離島部では 719 名の民生委員（回答率 74.2%）から回答が得られていたが、解析に必要な全ての項目に回答したものを解析対象とした結果、解析対象となったのは都市部 1205 名、中山間地・離島部 654 名の民生委員である。各地域において民生委員が認知症の人にみられると回答した福祉課題（複数回答可）の結果を表 1 にまとめた。都市部、中山間地・離島部いずれにおいても「家族が遠方」、「孤独・孤立」「徘徊」「近隣トラブル」などの課題が高い頻度でみられたが、「外出困難」「家族が遠方」に関しては中山間地・離島部においてより高い頻度で見られた。

次に、これらの福祉課題がどのような形で複合的にみられているかを検討するために、潜在クラス分析を実施した。適合度指標として AIC を用いたところ、都市部、中山間地・離島部それぞれにおいて 6 クラスによる分類が採用された（表 2, 3）。

それぞれの地域間で対応した特徴のあるクラスがみられた（「徘徊を中心に近隣トラブルを抱えるクラス」、「家族が遠方に住み孤立傾向を示すクラス」、「支援不足と近隣トラブルの複合したクラス」、「大きな福祉課題のみみられないクラス」、「孤立、支援不足、

生活困難の複合したクラス」、「ほぼ全ての課題が複合する最重度複合型クラス」)。いずれの地域においても、「大きな福祉課題のみられないクラス」は 1/4 程度の割合を占めていた。一方で、「ほぼ全ての課題が複合する最重度複合型クラス」は都市部では 1.4%、中山間地・離島部では 3.5%を占めていた。

次に、こうしたクラスに対して孤独・孤立がどのように影響しているのか評価するため、潜在クラス分析の各個票のクラス事後確率を目的変数として、地域別に孤独・孤立の主効果、地域構造の直接効果、さらにそれらの交互作用を回帰分析によって推定した。地域特性は病院数、高齢者千人あたりの病院数、面積、地域包括支援センター数、高齢者千人あたりの医師数として、それぞれ人口密度、高齢化率での残差を用いた。95%信頼区間は bootstrap によって推定した。

解析結果を図 1 に示す。孤独・孤立がある場合、都市部においても中山間地・離島部においても「大きな福祉課題のみられないクラス」の出現確率が低くなり、それ以外のほぼすべてのクラスの出現率は高くなった。例外として「徘徊を中心に近隣トラブルを抱えるクラス」は、都市部では孤独・孤立の影響を受けなかったが、中山間地・離島部では孤独・孤立によって出現確率が低下した。地域特性に関しては、都市部、中山間地・離島部によってクラスに対して生じる効果は異なっていた(簡潔にするため、詳細は省略する。)

研究 2. 介護支援専門員の認知症ケアマネジメント質の向上に向けたオンライン研修プログラムの開発

主任介護支援専門員を対象とした研修会を

オンラインで昨年度までに合計 4 回にわたって開催してきた。

今年度は令和 7 年 12 月 26 日に第 1 回研修を実施した。テーマは「認知症の薬の知識」「服薬管理について」とし、当日参加者は 20 名であった。

第 2 回は令和 8 年 2 月 13 日に実施したが、第 2 回についてはこれまでと異なり、外部講師(岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科竹本与志人教授)に講演を依頼し、講演+ケーススタディという形式で実施した。当日参加者は 58 名であった。

D. 考察

民生委員を対象とした調査のデータ解析からは、認知症の人がしばしば複合的な福祉課題を有していること、孤独・孤立が福祉課題の現れ方に影響しており、多くの場合孤独・孤立があることによって複合的な福祉課題がみられる危険性が高まること、孤独・孤立の影響は地域差がある可能性があることなどが示唆された。

介護支援専門員を対象とした研修プログラムの開発では、終了時アンケートでは参加者から好意的に受け止められていた。研修では研修実施直前、直後、3 ヶ月後に認知症高齢者に対するケアマネジメント実践自己評価尺度を実施して自己効力感の変化を調べているが、今年度の結果に関しては今後検証予定である。これまで実施したオンライン研修では自己効力感の向上が認められていたが、本年度の 1 回目研修はこれまでの研修とはテーマが異なり、また 2 回目の研修は外部講師に依頼して講演+ケーススタディとして行った。今年度研修においても、自己効力感の向上が認められるか、

検証が必要である。

E. 結論

民生委員を対象とした調査票調査およびインタビュー調査(研究1)および介護支援専門員を対象とした研修プログラムの開発(研究2)は一連の研究として企画されており、今年度の結果を報告した。

研究1からは認知症の人がしばしば複合的な福祉課題を有していること、孤独・孤立が福祉課題の現れ方に影響していることなどが明らかとなった。今後認知症の人が自分らしく暮らし続ける事のできる社会の実現に向けて必要な取組を検討する重要な基礎資料となることが期待される。

研究2では介護支援専門員を対象とした研修プログラムの開発では、そうした研修プログラムが介護支援専門員の認知症に関するケアマネジメントの知識・スキル向上に有用であることが示唆されており、介護支援専門員の認知症対応力向上のための取組として活用されることが期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当無し

2. 学会発表

廣濱賢太, 鄭 勲九, 岩本優士, 田邊淳平, 石井伸弥. 認知症世帯の福祉課題 6 類型と孤独関連—都市部・中山間部比較—. 第 39 回中国ブロック理学療法士学会(島根)(2026 年 8 月予定)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む.)

1. 特許取得

例) 該当なし

2. 実用新案登録

例) 該当なし

3. その他

例) 該当なし

Reference

- 1) Kazawa K, Mochizuki M, Ochikubo H, Ishii S. Development, reliability, and validity of a self-assessment scale for dementia care management. *Psychogeriatrics* 23(2):345-353. 2023

表 1. 都市部、中山間地・離島部において認知症の人にみられた福祉課題

	都市部	中山間地・離島部	差分
ゴミ屋敷	19	20	-1
近隣トラブル	35	34	2
孤独・孤立	38	42	-4
徘徊	34	25	9
8050問題（認知症の親の子が引きこもっている）	6	7	-1
家族の不仲	15	15	-1
必要な医療を受けていない	12	13	-2
必要な介護・生活支援を受けていない	20	21	0
経済的困窮	8	12	-4
外出困難	14	22	-8
家族が遠方	37	50	-12
その他	3	5	-1

（数値はすべて％）

表 2. 都市部におけるクラス分類

都市部（n=1205）

	ゴミ屋敷	近隣トラブル	孤独・孤立	徘徊	8050問題	家族の不仲	必要な医療を受けていない	必要な介護・生活支援を受けていない	経済的困窮	外出困難	家族が遠方	クラスの意味付け
クラスター1	0.1726	0.0175	0.4763	0.3175	0.0525	0.0707	0.0891	0.1907	0.0658	0.1504	0.4594	家族が遠方に住むことによる孤立傾向
0.36996	Very low	Very low	Moderate	low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Moderate	
クラスター2	0.0026	0.0694	0.0023	0.1457	0.0015	0.0449	0.0149	0.0191	0.0087	0.0239	0.0444	大きな福祉課題を抱えていない層
0.25667	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	
クラスター3	0.1702	0.9614	0.3673	0.4257	0.0109	0.1682	0.0465	0.1786	0.0361	0.0986	0.3765	近隣トラブルが中心で、一部に徘徊を伴う層
0.21837	Very low	Very high	low	Moderate	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	low	
クラスター4	0.4403	0.6709	0.6865	0.5066	0.167	0.3635	0.656	0.9151	0.2535	0.343	0.6471	介護支援不足と孤立・近隣トラブルが複合する層
0.08146	Moderate	High	High	Moderate	Very low	low	Very low	Very high	low	low	High	
クラスター5	0.6645	0.8617	0.8923	0.605	0.2174	0.4918	0.1605	0.0164	0.1726	0.3504	0.768	孤立・住環境問題・近隣トラブルを伴う複合型
0.05909	High	Very high	Very high	High	low	Moderate	Very low	Very low	Very low	low	High	
クラスター6	0.9768	0.9914	0.9951	0.8924	0.6735	0.9628	0.6848	0.9916	0.8951	0.6443	0.8683	ほぼ全ての課題を抱える最重度複合型
0.01445	Very high	Very high	Very high	Very high	High	Very high	High	Very high	Very high	High	Very high	

数値は福祉課題の各クラスにおける出現確率を示す。

表 3. 中山間地・離島部におけるクラス分類

中山間地・離島部(n=654)

クラスター	ゴミ屋敷	近隣トラブル	孤独・孤立	徘徊	8050問題 (認知症の親の 子が引きこも っている)	家族の不仲	必要な医療 を受け ていない	必要な介護・ 生活 支援を受け ていない	経済的困窮	外出困難	家族が遠方	クラスの意味付け
クラスター 1	0.0553	0.1831	0.4771	0.29	0.0483	0.0069	0.0652	0.1199	0.047	0.2965	0.6936	家族が遠方に住み孤立傾向を示す層
0.28324	Very low	Very low	Moderate	low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	low	High	
クラスター 2	0.37	0.5392	0.6385	0.1435	0.0374	0.3899	0.071	0.2032	0.1832	0.2343	0.6278	孤立・家族支援不足に近隣関係の問題を伴う層
0.24600	low	Moderate	High	Very low	Very low	low	Very low	low	Very low	low	High	
クラスター 3	0.0269	0.0921	0.0533	0.0067	0.0054	0.0375	0.0037	0.0019	0.0029	0.0138	0.1344	明確な課題特徴を示さない層
0.23384	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	Very low	
クラスター 4	0.5271	0.5058	0.7619	0.4257	0.1352	0.0059	0.5697	0.5443	0.2608	0.4303	0.6426	孤立と支援不足に生活困難が重なる層
0.12047	Moderate	Moderate	High	Moderate	Very low	Very low	Moderate	Moderate	low	Moderate	High	
クラスター 5	0.1264	0.4993	0.0732	0.6626	0.0217	0.1634	0.0379	0.2493	0.0207	0.0062	0.1103	徘徊を中心に近隣関係の問題を抱える層
0.08097	Very low	Moderate	Very low	High	Very low	Very low	Very low	low	Very low	Very low	Very low	
クラスター 6	0.6617	0.7229	0.9547	0.5125	0.6968	0.8814	0.7777	0.9495	0.7218	0.6641	0.9486	多領域の課題が集積する最重度複合型
0.03547	High	High	Very high	Moderate	High	Very high	High	Very high	High	High	Very high	

数値は福祉課題の各クラスにおける出現確率を示す。

図 1. 孤独・孤立の各クラスに対する影響

